

高機能自閉症幼児の発達過程－S君の例を通じて－

内山 マリ子
葛飾区心障会館

(はじめに)

自閉症の三つの必須症状は

①社会的相互交渉における質的な障害

②コミュニケーションにおける質的障害

③反復的・常同的行動、狭い関心や活動性

である。しかしそのあらわれる状態は個々に異なり、三つの必須症状以外にもさまざまな問題をもつことが多い。また年齢とともに行動に表れる特徴に変化がみられる。そこで高機能自閉症児であるS君の個別指導を行うとともに、発達過程を追跡することにした。

(方法)

月2回、1回1時間の個別指導

(生育歴)

出生時：在胎期間 41週

出生体重 3,248g

定頸 生後3～4ヵ月

始歩 生後11ヵ月

始語 3歳0ヵ月

なお保健所1歳6ヵ月健診で、発語がなく視線が合いにくいいため、要経過観察となる。

(新版K式発達検査)

3歳4ヵ月 DQ 72

認知・適応 DQ 72

言語・社会 DQ 70

4歳5ヵ月 DQ 79

認知・適応 DQ 87

言語・社会 DQ 74

5歳9ヵ月 DQ 86

認知・適応 DQ 104

言語・社会 DQ 69

6歳4ヵ月 DQ 93

認知・適応 DQ 107

言語・社会 DQ 84

(個別指導の経過)

I期(3歳8ヵ月～4歳5ヵ月)

認知：パズルボックス 一つの面の形のマッチングは可能だが、異なる面を回転できない。

はめこみパズル 方向が違う点を指摘されるとパニックになる。

三枚パズル 不可。

絵カード記憶 可能。

シールはり マッチング可能。

言語：絵日記 母親が描くときはよく見るが、個別指導の中で見せると拒否する。または文字を読む。

絵本 拒否するが「しかけ絵本」で遊ぶ。簡単な質問にたまに単語で答える。

コミュニケーション

：袋の中のミニチャア当て 当たらないと泣く。少しづつ上達する。

マグネットゲーム ルール理解不能。

ミニチャアの競争ごっこ ルール理解不能。少しづつ上達。

ミニチャアのかくれんぼ ルール理解不能。誤ると泣く。

問題行動：トイレに行く時間を強迫的に守る。

一度指示された仕事を常に行い、他人が行うとパニックになる。

：着替えるときは必ずドアにタッチする。

：自分のおもちゃに他児が触るとパニックになる。

：あいさつするとき、視線を合わせない。

II期(4歳5ヵ月～5歳5ヵ月)

認知：パズルボックス スムーズに面を探すことができない。少しづつ上達する。

果物絵パズル 可能。

三枚パズル 可能。

ペグ 可能。

動物パズル 可能。

言語：絵日記 拒否し「これ嫌い」ということがある。質問に単語で答えることがある。文字を優先して読む。たまに主語と動詞の文をいうことがある。

つぎのページをめくりたがる。制止すると話に沿って絵を見る。

カルタ 文を聞いて絵札の文字を見て判断する。絵札を見て一語文で言う。

コミュニケーション

：他児とのスゴロク 初回は視線をあわせず、無

表情で行う。2回目以後、
 ルールを理解し楽しむ。
 ママごと 自分のルールで行う。
 ジャンケンゲーム 上達し勝負に強くなる。
 動物園ごっこ 不可。
 神経衰弱ゲーム 4枚組のカードで、ルール
 を理解できるようになる。
 三目並べ ルールを理解、勝ちたがる。
 こままわしゲーム 初回は不能だが、上達する。

問題行動

：わざと変なことをいう。
 ：意味のない「ことばあそび」をする。
 ：どちらがいいか、選べない。
 ：「いや」、「やらない」を連発する。
 ：折り紙、または「切り紙」に執着する。
 ：気分の変動が激しい。

Ⅲ期 5歳7ヵ月～6歳5ヵ月

認知：パズルボックス 可能

：絵パズル 難しい課題でも可能。

言語：絵日記 主語と動詞の文が言えるようになる。
 文に助詞が入るようになる。文を優先
 して読む傾向は強い。「だれ？」の質
 問の意味がとれず、オウム返しをする。

文の復唱課題 少しずつ可能になる。

絵本 顔の表情の変化に興味をもつ。つぎの
 ページをめくりたがるが、制止すると
 絵を見るようになる。質問に主語と述
 語で答える回数が増えた。

カルタ 絵札を見て文を言う課題が可能になる。

カテゴリー分け 可能。

しりとり 可能。

スリーヒントカルタ

ルールの理解に時間がかかるが、具体
 的な提示があれば可能。絵札を見てス
 リーヒントをいえる。

S-S カード 3要素カードが可能。4要素カー
 ド不可。

絵カード 動きことばのカードではほぼ動詞を
 言える。様子ことばカード（あいさ
 つ、位置関係、左右など）はほぼ言
 える。

なぞなぞカルタ

文を聞いて絵札を取る。絵札を見て
 文をいうことができるようになる。

ことばのおけいこワーク すべて可能。

コミュニケーション

：神経衰弱ゲーム 可能。

ルーレットゲーム 可能。3人対戦可能。

顔表情カード 模倣して楽しむ。

しりとりゲーム 自分勝手に一人ずつ指名して
 言わせる。

自由会話 少しずつ質問に答えるようになる。

問題行動

：一方的に自分のルールを押し通す。
 ：質問に答えにくい。
 ：個別指導などで行う課題を自分で決めてくる。
 ：慣れていない人には視線を合わせない。

(考察)

S君は始語が遅い、こだわりがある、視線が合わない、などを1歳6ヵ月健診時に指摘された。3歳の時はおとなしく無表情であるが、パニックになりやすい傾向があった。3歳8ヵ月より個別指導を始めた。Ⅰ期では新版K式発達検査の結果、認知・適応、言語・社会ともにDQ70台であったため、認知面と言語面の課題を中心に行い、コミュニケーションも少し取り入れた。Ⅱ期では新版K式発達検査結果で、数唱や数概念が伸びたため、言語・適応がDQ87と上昇した。しかし了解Ⅰが不通過で言語理解が年齢に比して一年ぐらいの遅れがあった。そのため言語面・コミュニケーション面の課題を中心におこなった。絵本や母子で描いた絵日記などで人とのやりとりや言語理解を促進するように働きかけた。Ⅲ期の新版K式発達検査結果では認知・適応は年齢相応の発達段階となった。しかし言語・社会では了解Ⅰの項目が通過せず、年齢に比して2歳9ヵ月の遅れがあった。そのため言語面の課題を多く取り入れ、名詞と動詞を組合せた文章構成や文章の記憶、絵の説明などの課題を行った。その結果、傾聴態度が少し上達し応答も少しずつするようようになった。6歳4ヵ月の新版K式発達検査では言語・社会がDQ84で了解Ⅲを通過した。しかし、認知・適応に比して20の差があった。絵の叙述では質問に対してオウム返しをし、まったく叙述できなかった。指導の中では叙述できる課題があったが、答え方を具体的に提案されないと応答できない様子がみられた。一方こだわりは年齢とともに減弱し、他者に対して柔軟な態度がとれるようになった。しかし自分のペースを押し通そうとすることや視線が合いにくい、質問への応答を避けるなどは残っている。また、よく注目したり傾聴するときと、自分のペースで行動しようとするときの差が激しいことも残っている。